

令和6年度 串間市立市木小学校「学校関係者評価書」

評価の基準	「4」期待以上 ～85%	「3」ほぼ期待通り 84%～70%	「2」やや期待を下回る 69%～40%	「1」改善を要する 40%～
学校の教育目標	自信に満ち 豊かな心をもって たくましく生きる子どもの育成			

本年度の重点目標	○ 生きる力を育む確かな学力の育成 【知：共に学び伝え合う喜び】
----------	----------------------------------

評価項目	評価指標	設置 期間 番号	学校の自己評価コメント	自校 評価	外部 評価	学校関係者評価委員コメント
生きる力を育む確かな学力の育成	■分かりやすい授業づくり ・授業に向かう態度 肯定的回答 児童 94% 保護者 92% 教師 100% 平均 95% ・授業内容の理解 肯定的回答 児童 91% 保護者 100% 教師 76% 平均 89%	1	概ね「4」の評価 ○ 児童・保護者・教師の全てにおいて9割以上が肯定的な回答を行っていた。児童は、落ち着いて学習に取り組むことができている。また、教師も授業展開を工夫して、考える場面を多く設定した学習を展開している。			○ 児童の皆が授業に向き合うように教師が授業を展開している。児童も挙手し、積極的に授業に参加している。 ○ 授業内容の工夫・研究がなされている様子が、授業の中や発表会の中で発揮できているのが伺えて、子どもたちも生き生きとしている様子がうかがえる。 ○ タブレットを活用した学習活動の工夫で、主体性を伸ばす指導の充実を期待する。その一方で、視力低下も懸念される場所である。 ○ 児童、保護者、教師共に高評価で一致している。複式学級では、大変な苦労があるのではないかとと思うが、「問いのたせ方」の研修もされており、その成果も上がっているように思う。 ○ 学習することは、「おもしろい」という経験の積み重ねで、学ぶ意欲に繋がり、個人のペースに合わせた解決方法が進められていることにより、躓きもなくなっていくのではないかとと思う。今後もこのような取組を続けてほしい。
	■基本的な学習態度や望ましい学習習慣の形成 ・聞く姿勢や態度 肯定的回答 児童 100% 保護者 93% 教師 50% 平均 81% ・考えを伝える力 肯定的回答 児童 82% 保護者 92% 教師 75% 平均 83%	3	概ね「3」の評価 ○ 「しっかりと話を聞いていること」について、児童や保護者は肯定的な回答が多いが、教師の評価は昨年よりも高くなったものかなり低い。「最後まで聞く」ところがカギになるので、今後更に指導の徹底を図っていく。			○ 折り紙や糸等、身の回りにある材料を使って、意識に残る授業をしている。学習が単なる勉強ではなく日常生活に応用して身に付けられるように工夫されている。
	・漢字力、計算力 肯定的回答 児童 100% 保護者 100% 教師 88% 平均 96%	4	概ね「3」の評価 ○ 教師の評価が75%と低いが、昨年(67%)より向上している。児童が、考えを正確に伝えるためには、文章表現力も必要なため作文をさせるといった取組を今後も継続して行っていく。	3	4	○ 価値観の多様化や様々な家庭環境があり、その対応も難しくなっていることを感じる。しかしながらそれぞれの時代に合ったより良い方向に進められるように、各種関係機関とも協力しながら、「チーム市木」として、学校教育を進めていきたい。 ○ 若手の先生方は経験も浅いので、児童の個性を生かすノウハウを優れた先生から学んでいただき、今後の児童への授業取組として臨んでいただきたい。
	・読書の習慣(家読) 肯定的回答 児童 69% 保護者 77% 教師 50% 平均 65%	5	概ね「3」の評価 ○ 本年度も「スキル」の時間を設定し、学習内容の確実な習得を図った。また、学期末に漢字コンテストを実施し、満点の児童は全体の場で表彰する活動を行っている。このことにより、満点を取ろうと頑張る児童が多く、効果があがっている。			○ 授業を理解するにも「聞く力」がしっかり育っていないと苦勞することになる。また、「聞く力」が育てば「伝える力」も育ち、お互いの思っていることや考え方など理解し、共有できるようになると思います。昨年度より教師の評価が上がってきているので今後とも指導をお願いしたい。
	・家庭学習 肯定的回答 児童 57% 保護者 85% 教師 25% 平均 56%	6	概ね「2」の評価 ○ 6月の第1回の学校評価アンケートでは、肯定的な回答を行った割合が50%であったが学校で取り組んでいる「家読」や図書委員会や教師が薦める本の紹介などの活動により、今回が65%に上昇した。今後更なる取組の充実を図っていく。			○ 漢字力、計算力は、学習の基礎であるので、漢字コンテストの取組は継続して意欲づけに繋げてほしい。 ○ 読書は文章から想像し心を揺さぶられたり、経験を共有したり、教訓を得たりする。また、自然に文章のつながりや筆者の主題等、国語で学ぶ勉強も身に付く。作文をすることにもつながるように思う。
		7	概ね「2」の評価 ○ 学校では、家庭学習の確実な見届けを行っている。しかし、昨年度の反省でも挙げたが保護者によって、家庭学習に対する意識に違いがあるため、家庭で行う習慣が身に付いていない児童がいる。今後も、翌日の授業に直結する課題の提示などの工夫を図りながら、家庭学習の習慣化を図りたい。			○ 本の紹介(アピールした本を読む)は、大変いいことだと思う。教師と生徒からの「この本おもしろかったよ」の紹介があれば、もっと読書率が上がるのではないかとと思う。

本年度の重点目標		○ 命を大切に、豊かな心を育む教育の推進 【徳：生命を尊重し思いやる喜び】				
評価項目	評価指標	設問番号	学校の自己評価コメント	自己評価	外部評定	学校関係者評価委員コメント
命を大切に し豊かな心を 育む教育の 推進	■基本的な生活習慣の確立 ・あいさつの習慣 肯定的回答 児童 94% 保護者 100% 教師 76% 平均 90% ・学校の生活のきまり 肯定的回答 児童 97% 保護者 100% 教師 88% 平均 95% ・手伝いや清掃(協力) 肯定的回答 児童 100% 保護者 100% 教師 100% 平均 100%	8	概ね「3」の評価 ○ 児童、保護者の評価は高い傾向であるが、教師の評価は昨年度より上がっているものの76%と低かった。学期初めに自衛隊の方々もあいさつ運動にご協力いただき、その場では元気なあいさつの声が響いていた。普段でも元気なあいさつが響くように指導中である。	3	4	○ 児童は日常でもあいさつをよくしている。児童と交流をもった地域の方から、地震で大きく揺れた時に、走って家に来て大丈夫か声をかけてくれたと聞き、思いやり深いことに感心した。 ○ 児童が楽しく登校できている状況が見受けられ大変嬉しく感じる。学校生活が楽しく行われていること、明日も学校へ行きたいと思えること、児童がそう思えるようにこれからも学校運営を進めたい。 ○ 学校でのあいさつは勿論であるが、地域できちんと挨拶できることが肝心である。家庭での日常の声掛けが成果に繋がっていくと思われる。なぜあいさつは必要なのかを児童に問いかけ励行へと結び付けたい。 ○ 気持ちのいいあいさつは、笑顔にも繋がると思う。自衛隊の方々のあいさつ運動は、子どもたちにとっても自衛隊の方々にとっても相乗効果があり、いいことだと思う。続けてほしい。 ○ 料理を作ることができる児童もいるようです。冷蔵庫を開けて入っている材料を工夫して調理すると聞き、びっくりした。 ○ 手伝いや清掃を通して、人の役に立つことの気持ちよさを感じ、積極的に行動できるようになると思う。整理整頓する力は、大人になっても必要な力です。このまま伸びてほしい。
	■学級の望ましい人間関係と思いやりの心の醸成 ・言葉遣い 肯定的回答 児童 85% 保護者 93% 教師 76% 平均 85%	11	概ね「4」の評価 ○ 月に一度、心のアンケートの実施及び定期的な教育相談を実施している。友達同士のトラブルはあったが、速やかな教師の指導・組織的な対応を行いながらトラブルの解決を図ってきた。また、今年度は、スクールカウンセラーの方にも児童の様子を見ていただいたり、思いやり委員会に参加いただいたりし、アドバイスをいただいた。			○ いじめ・不登校については、現段階では、特に事案は発生しておらず、常日頃熱心に取り組んでおられることが伺われた。学校が安心・安全な場所と思えて、いじめなどが起こらないよう、早期発見、迅速な対応を今後も継続して心がけていきたい。 ○ 何気ない行動や言動が人を傷つけてしまうことや児童一人一人がお互いを大切な存在であると認め、思いやりの心が育つよう今後も指導してほしい。もし、悩んでいる児童がいたら、早期に解決できるようにしてほしい。
	・人間関係①(人権尊重) 肯定的回答 児童 88% 保護者 100% 教師 88% 平均 92%	12	概ね「4」の評価 ○ 児童、保護者、教師共に評価が高かった。「全校人権集会」を12月に実施し、互いの良さを知るよい機会となった。今後も、道徳や学級活動の授業において自分のよさを発見させる時間を確保し、児童一人一人が自己肯定感を高められるような授業実践の充実を図っていく。			○ 他人の良いところより、悪いところに目が向きがちだが、他人も自分も良いところを発見させる取組は、視点を変えることにより、児童一人一人の自己肯定感が高められると思う。今後も続けてほしい。
	・人間関係②(相互協力) 肯定的回答 児童 97% 保護者 100% 教師 88% 平均 95%	13	概ね「4」の評価 ○ 清掃や登下校、学校行事などの縦割りでの班活動の機会を設定することによって、相互協力することが増え、困っている友達や下学年に対して優しく接する姿が見られる。今後実施するお別れ遠足でも縦割り班での活動を計画している。			○ 登下校中も交通ルールを守り、上級生は下級生に寄り添いながら歩いている。大型トラック等が通る狭い道路でも、安全に注意をしている。
	■整理整頓 ・整理整頓 肯定的回答 児童 90% 保護者 54% 教師 63% 平均 69%	14	概ね「2」の評価 ○ 学校においては、教師が定期的に机や棚の中身をチェックしながら整理整頓の指導を行っている。保護者も教師も評価が低いことから、学校と家庭が連携して、指導を充実させたい。			

本年度の重点目標		○ 健やかな体の育成と安全教育の充実 【 体：健康・安全で共に伸びる喜び 】				
評価項目	評価指標	設問番号	学校の自己評価コメント	自己評価	外部評定	学校関係者評価委員コメント
健やかな体の育成と安全教育の充実	■基礎体力の向上 ・外遊びと運動 肯定的回答 児童 94% 保護者 93% 教師 100% 平均 96%	15	概ね「4」の評価 ○ 児童は外で体を動かすことをとても好み、昼休みはサッカーやけいどうをはじめとした鬼ごっこを進んでいる。また、放課後や休日にも地域の活動に参加している児童も多い。しかし、家ではゲームばかりしている児童もいる。今後は、さらに外遊びを推奨して、運動の楽しさを味わえるようにしたい。 ○ 体力テストの結果を受けて、特に低かった「ソフトボール投げ」について、授業の中で楽しく記録に挑戦するなど体力向上を図った。また、体育振興授業教員の協力を得て、より専門的な指導技術を研修し、効果的な指導の充実を図った。			○ 運動することが好きな児童は、積極的に集団の中に入ってサッカーや鬼ごっこなどして、自然に体力もついてくると思うが、苦手意識のある児童との差もできてしまうと思う。外遊びの楽しさを知り、全体が伸びてほしい。
	■健康な生活習慣の確立 ・望ましい生活習慣(リズム)の形成 肯定的回答 児童 97% 保護者 92% 教師 38% 平均 76%	16	概ね「2」の評価 ○ 児童・保護者における「早寝・早起き・朝ごはん」の回答は90%を超えていたが、中には十分に朝食がとれていない児童もいるようである。また、朝の登校が間に合わない児童や週の始めに欠席が目立つ児童など、保護者の生活リズムや週末の過ごし方も影響している様子が見られる。保護者には保健便りを通して啓発を行っている。	3	3	○ 登校時、集合場所に来るまでに、パンやおにぎりを持って食べながら来る時を見ることがある。生活リズムが定着していないと思われる。一方、皆と一緒に登校したい気持ちがあるのは喜ばしいと思う。 ○ 「早寝・早起き・朝ごはん」の定着率が低い点では、保護者だけでなく、子どもの意識も変えていくことも必要と考える。 ○ 基本的な生活習慣が乱れると、健康面でも学習面においても支障が出てくるので、保護者の意識付けをお願いしたい。教師は、低い評価であるが保護者は高いので、意識改革が必要だと感じる。
	■安全教育の推進 ・安全意識 肯定的回答 児童 94% 保護者 92% 教師 88% 平均 91%	17	概ね「3」の評価 ○ 自転車の乗り方について指導が必要なこともあった。ヘルメットの着用については随分習慣化してきている。また、警察の方にもご協力いただき、不審者対応避難訓練も実施した。安全な避難方法について学ぶよい機会となった。 今後も計画的・継続的に危機回避能力の育成に取り組んでいきたい。			

本年度の重点目標		○ 地域に開かれ信頼される学校の実現 【 連：人の役に立ち繋がりが合う喜び 】				
評価項目	評価指標	設問番号	学校の自己評価コメント	自己評価	外部評価	学校関係者評価委員コメント
地域に開かれ信頼される学校の実現	■家庭・地域社会との連携 ・学校と家庭との連絡 肯定的回答 児童 88% 保護者 85% 教師 75% 平均 83%	18	概ね「3」の評価 ○ 家庭と学校・学級との連絡を図るため学級通信等を定期的に発行している。しかし、プリントなどを家の人に見せていないと回答している児童もいる。大事な連絡がある場合もあるので、家庭と連携して確実に情報が伝わるように指導していきたい。	3	4	○ 夜までに保護者と児童でプリント配付の確認や宿題、明日の用意まで調べておくと、朝、帽子等の忘れ物がなくなると思う。保護者の意識を高めることも大切である。 ○ 学校と家庭、地域との連携はよくできていると感じている。連携を図るための通信等が保護者に届いていないともったいないので、児童に意識付けをしていただき、保護者にも声掛けや確認をしていただきたい。 ○ 親子の会話が下がっているのは、ゲーム等で遊ぶ時間が増えているのではないかと心配になる。保護者にも話しかけやすい雰囲気作りを行っていただきたい。
	・親子の会話 肯定的回答 児童 94% 保護者 77% 教師 100% 平均 90%	19	概ね「3」の評価 ○ 保護者の評価が昨年よりも下がっている。家庭によって差があるようである。家庭での会話が進むと、学校でも様子も広く理解していただけたと思うので、学校での様子をお子さんに聞くなどして親子の会話をもつよう保護者に投げかけていきたい。			
	・地域との交流 肯定的回答 児童 81% 保護者 92% 教師 100%	20	概ね「4」の評価 ○ 本年度は、柱松は中止となったが、神社大祭、市木浜クリーン大作戦といった行事に参加することができた。また、デイサービス訪問やグランドゴルフなど地域との交流を積極的に行った。交流では子どもたちと会話が弾んでいたため、今後も積極的に実施していきたい。学校が地域の方にとって身近に感じるように努めていきたい。			
	・学校からの情報発信 肯定的回答 保護者 92%	21	概ね「3」の評価 ○ 保護者の評価が9割を超えてはいるものの、100%ではない。さらに、学校の情報が伝わるように、ホームページや通信の工夫も行っていきたい。急な連絡を要する場合は、マチコミメールを活用し、迅速な情報発信も行っている。			
	・学校の対応 肯定的回答 保護者 92%	22	概ね「3」の評価 ○ 多くの保護者が肯定的な回答をしているが、100%ではない。今後は、さらに保護者や地域の方々の意見や要望等に対して、真摯に対応するよう心がけていきたい。			